

Arcserve Replication / High Availability

ビル計画停電時の注意事項と作業方法

2021 年 4 月現在

はじめに

計画されたビル停電やハードウェアメンテナンスなどで、Arcserve Replication/High Availability を導入した本番（マスター）サーバが使用できなくなることが予め判明している場合、本番業務を一時的に複製先（レプリカ）サーバに切り替えることで業務を継続することができます。

本文書では切り替えおよび切り戻し時の注意事項と作業方法を記載しています。

対応製品バージョン：r16.5、18.0

Arcserve Replication をご利用の場合の対処方法

ここでは以下 3 つの場合について記載します。

- ・ 本番(マスタ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合
- ・ 複製先(レプリカ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合
- ・ 本番(マスタ)サーバおよび複製先(レプリカ)サーバが両方とも停電区域内に設置されている場合

※注意：記載内容はレプリケーションモードが「オンライン」（デフォルト設定）および「定期的」の場合を中心に記載します。「スケジューリング」で実施されている場合には停電中に同期が実行されないようスケジュールを調整してください。

■ 本番(マスタ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合

本番(マスタ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合には状況に応じて対応が異なります。

(1) 停電中もデータへのアクセスが求められる場合

(別の地域からはデータの参照・更新などが行われるような場合)

(2) 停電中はデータへのアクセスが必要ない場合

(本番サーバの設置場所にほぼ全ての従業員がいるような場合)

(1) 停電中もデータへのアクセスが求められる場合

本番(マスタ)サーバが停電実施区域内に設置されており、停電中にアクセスできなくなることが懸念される場合には、レプリカサーバに運用を切り替えてください。

ファイルサーバでレプリカへの切り替えを行う手順についてインストールガイド「■ 本番サーバが故障！レプリカ サーバを使ってみよう」以降に記載されていますので参考にしてください。

インストールガイド

18.0 <https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2019/05/rha-180-install-guide.pdf>

16.5 https://www.arcserve.com/jp-uploads/wp-content/uploads/2017/06/rha_r165_install-guide-new.pdf

※リンクを起動出来ない場合、以下の手順でアクセスします。

[カタログセンター] – [Replication/HA] タブ

>>> Replication / High Availability – 技術資料:

>>>インストールガイド

(2) 停電実施中はデータへのアクセスが必要ない場合

本番(マスタ)サーバが停電実施区域内に設置されており、停電中にデータへのアクセスが必要ない場合には、不要な再同期を避けるため「ホストメンテナンス」機能を利用します。

① 停電実施前に、以下の技術文書を参考に「ホストメンテナンス」機能を利用し、マスタサーバをシャットダウンしてください。

[技術情報 : ホスト メンテナンス モニタを用いたホスト メンテナンス実行手順]

<https://support.arcserve.com/s/article/202911695?language=ja>

② 停電が終わったら、マスタサーバを起動してください。レプリケーションは再同期なしに自動で開始します。

■ 複製先(レプリカ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合

複製先(レプリカ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合は、不要な再同期を避けるため「ホストメンテナンス」機能を利用します。

- ① 停電実施前に、以下の技術文書を参考に「ホストメンテナンス」機能を利用し、レプリカサーバをシャットダウンしてください。

[技術情報：ホスト メンテナンス モニタを用いたホスト メンテナンス実行手順]

<https://support.arcserve.com/s/article/202911695?language=ja>

- ② 停電終了後にレプリカサーバを起動してください。レプリケーションが再同期なしに自動で開始します。

レプリカサーバが停止している間の変更は本番(マスタ)サーバのスプール領域にデータが保存されますので、ディスクの空き容量にご注意ください。

■ 本番(マスタ)サーバおよび複製先(レプリカ)サーバの両方が停電区域内に設置されている場合

本番(マスタ)サーバおよび複製先(レプリカ)サーバが両方とも停電区域内に設置されている場合は、サーバ起動後の自動同期を避けるためシナリオをあらかじめ停止します。

- ① 停電実施前にシナリオを停止し、マスタサーバおよびレプリカサーバをシャットダウンしてください。
- ② 停電終了後に、マスタおよびレプリカサーバを起動し、シナリオを実行します。

※ シナリオ実行（開始）時には同期が行われます。データ容量やファイル数の多い環境などでは同期処理完了までには時間がかかります。また、同期中はマスタサーバのパフォーマンスに影響が出る可能性がありますので、シナリオの開始は夜間や週末などサーバへのアクセス頻度が少ない時間帯に行ってください。また、停電が予想される時間帯には同期が行われないようにしてください。

Arcserve High Availability をご利用の場合の対処方法

ここでは以下 3 つの場合について記載します。

- ・ 本番(マスタ)サーバのみが停電区域内に設置されている
- ・ 複製先(レプリカ)サーバのみが停電区域内に設置されている
- ・ 本番(マスタ)サーバおよび複製先(レプリカ)サーバが両方とも停電区域内に設置されている

■ 本番(マスタ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合

本番(マスタ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合には状況に応じて対応が異なります。

- (1) 停電実施中もデータへのアクセスが求められる場合
(別の地域からはデータの参照・更新などが行われるような場合)
- (2) 停電実施中はデータへのアクセスが必要ない場合
(本番サーバの設置場所にほぼ全ての従業員がいるような場合)

(1) 停電中もデータへのアクセスが求められる場合

A) シナリオに「コンピュータ名の切り替え」が含まれない場合

本番(マスタ)サーバが停電実施区域内に設置されており、停電実施中にアクセスできなくなることを懸念される場合には、スイッチオーバーを実施し、複製先(レプリカ)サーバに運用を切り替えてください。

- ① 停電前に、実行中シナリオを選択し[スイッチオーバーの実行]ボタンをクリックし、スイッチオーバーを実行します。表示されるダイアログボックスにて[スイッチオーバー後のリバース レプリケーション シナリオの実行]にチェックを入れて[OK]をクリックします。これらの処理を対象となるサーバが含まれる全シナリオで実施します。
- ② スイッチオーバーが終了したら、リバース(逆向き)レプリケーションが自動的に開始します。※この際、同期は発生しません。
- ③ 以下の技術文書を参考に「ホストメンテナンス」機能を実行して、本番(マスタ)サーバ(この時点ではスタンバイサーバになっている)をシャットダウンします。[技術情報 : ホスト メンテナンス モニタを用いたホスト メンテナンス実行手順]

<https://support.arcserve.com/s/article/202911695?language=ja>

停電が終了したら以下を実施します。

- ① 本番(マスタ)サーバを起動します。レプリケーションは自動的に開始します。
- ② 再度[スイッチオーバーの実行]ボタンをクリックし、スイッチバックを実行します。表示されるダイアログボックスにて[スイッチオーバー後のリバース レプリケーション シナリオの実行]にチェックを入れて[OK]をクリックします。
- ③ スイッチバックが終了したら、複製先(レプリカ)サーバへのレプリケーションが自動的に開始します。※この際、同期は発生しません

また、スイッチオーバー後、マスタサーバが停止している間の変更はレプリカサーバのスプール領域にデータが保存されますので、ディスクの空き容量にご注意ください。

B) シナリオに「コンピュータ名の切り替え」が含まれる場合

本番(マスタ)サーバが停電実施区域内に設置されており、停電実施中にアクセスできなくなることを懸念される場合には、スイッチオーバーを実施し、複製先(レプリカ)サーバに運用を切り替えてください。

- ① 停電前に、実行中シナリオを選択し[スイッチオーバーの実行]ボタンをクリックし、スイッチオーバーを実行します。これらの処理を対象となるサーバが含まれる全シナリオで実施します。シナリオは自動的に停止します。
- ② 本番(マスタ)サーバをシャットダウンします。

停電が終了したら以下を実施します。

- ① 本番(マスタ)サーバを起動します。
- ② シナリオを選択し、[実行]ボタンをクリックし、バックワードシナリオを実行します。

この際、同期が行われます。データ容量やファイル数の多い環境などでは同期処理完了までには時間がかかります。また、同期中はマスタサーバのパフォーマンスに影響が出る可能性がありますので、シナリオの開始は夜間や週末などサーバへのアクセス頻度が少ない時間帯に行ってください。また、停電が予想される時間帯には同期が行われないようにしてください。

- ③ バックワードシナリオによる同期が終了したら、[スイッチオーバーの実行]をクリックし、スイッチバックを実行します。
- ④ シナリオを選択し、[実行]ボタンをクリックし、シナリオを実行します。

この際、同期が行われます。データ容量やファイル数の多い環境などでは同期処理完了までには時間がかかります。また、同期中はマスタサーバのパフォーマンスに影響が出る可能性がありますので、シナリオの開始は夜間や週

末などサーバへのアクセス頻度が少ない時間帯に行ってください。また、停電が予想される時間帯には同期が行われないようにしてください。

(2) 停電実施中はデータへのアクセスが必要ない場合

マスタサーバが停電実施区域内に設置されており、停電実施中にデータへのアクセスが必要ない場合には、不要な再同期を避けるため「ホストメンテナンス」機能を利用します。

- ① 停電実施前に、以下の技術文書を参考に「ホストメンテナンス」機能を実行し、マスタサーバをシャットダウンしてください。

[技術情報：ホスト メンテナンス モニタを用いたホスト メンテナンス実行手順]

<https://support.arcserve.com/s/article/202911695?language=ja>

- ② 停電が終わったら、マスタサーバを起動してください。レプリケーションは自動で開始します。

■ 複製先(レプリカ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合

複製先(レプリカ)サーバのみが停電区域内に設置されている場合は、不要な再同期を避けるため「ホストメンテナンス」機能を利用します。

- ① 停電前に、以下の技術文書を参考に「ホストメンテナンス」機能を利用し、レプリカサーバをシャットダウンしてください。

[技術情報：ホスト メンテナンス モニタを用いたホスト メンテナンス実行手順]

<https://support.arcserve.com/s/article/202911695?language=ja>

- ② 停電終了後にレプリカサーバを起動してください。レプリケーションが再同期なしに自動で開始します。

レプリカサーバが停止している間の変更は本番(マスタ)サーバのスプールにデータが保存されますので、ディスクの空き容量にご注意ください。

■ 本番(マスタ)サーバおよび複製先(レプリカ)サーバの両方が停電区域内に設置されている場合

本番(マスタ)サーバおよび複製先(レプリカ)サーバが両方とも停電区域内に設置されている場合は、サーバ起動後の自動同期を避けるためシナリオをあらかじめ停止します。

- ① 停電実施前にシナリオを停止し、マスタサーバおよびレプリカサーバをシャットダウンしてください。
- ② 停電終了後に、マスタおよびレプリカサーバを起動し、シナリオを実行します。

※ シナリオ実行（開始）時には同期が行われます。データ容量やファイル数の多い環境などでは同期処理完了までには時間がかかります。また、同期中はマスタサーバのパフォーマンスに影響が出る可能性がありますので、シナリオの開始は夜間や週末などサーバへのアクセス頻度が少ない時間帯に行ってください。また、停電が予想される時間帯には同期が行われないようにしてください。